

「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を学ぶ研修会

1. 趣旨

平成30年度から全面実施される「幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の方向性」を学ぶとともに、36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラムの体験会を通して、健康な心と体を育てる指導方法を身につける。

2. 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構

3. 主管 国立花山青少年自然の家

4. 後援 宮城県、宮城県教育委員会、栗原市教育委員会、大崎市教育委員会、登米市教育委員会

5. 概要 (1) 期日 平成29年12月8日(金)～9日(土)【1泊2日】

(2) 参加者

①対象 幼稚園教諭・保育士・大学等幼児教育関係者・幼児教育系の学部にて在籍する学生

②参加者数 宿泊52名 日帰り39名

6. 場所 国立花山青少年自然の家

7. 講師

- ・前国立青少年教育振興機構理事長 田中壮一郎 氏
- ・文部科学省幼児教育課調査官 河合 優子 氏
- ・厚生労働省保育課専門官 鎮目 健太 氏
- ・国立青少年教育振興機構理事長 鈴木みゆき 氏
- ・実習指導 国立花山青少年自然の家職員

8. 企画・運営のポイント

平成30年度から始まる新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針について学ぶ機会として、実際に幼稚園教育要領の改訂に携わった講師の方々に、日本の教育がたどってきた歴史や、これからの日本の教育の方向性についてシンポジウムや講演をしていただき、幼児期からの遊びを通して基本的な体の動かし方を学ぶことの大切さを学ぶために、花山青少年自然の家で実施している「36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム」体験会を企画した。

9. 日程

期 日	時 間	活 動 内 容
12月8日(金)	18:30～ 20:30～	・36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム体験会 実習A、B ・くつろぎカフェ
12月9日(土)	9:00～ 11:00～	・シンポジウム『幼稚園教育要領・保育所保育指針改訂の解説』 ・特別講演『教育基本法の解説』

10. 活動の内容について

【12月8日(金)】36の基本的な動きを取り入れた幼児の運動プログラム体験会



実習A「みんなで遊んじゃおう！」



実習B「段ボールで作っちゃおう！」



くつろぎカフェ

【12月9日（土）】



シンポジウム『幼稚園教育要領・保育所保育指針改訂の解説』



特別講演『教育基本法の解説』

1 1. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：64% やや満足：36% やや不満：0% 不満：0%

参加者に対して行ったアンケート（回答数80件中）の集計結果は、「満足」「やや満足」の割合が多かった。

(2) 参加者の声

- 知らなかった事ばかりで大変参考になりました。
- 実技研修と今学びたい内容のシンポジウムに両方参加することができ、大変有意義な研修会だったと思う。
- 体験型の研修がありとても参考になりました。他の施設の方との情報交換や交流にもなりとても良かったです。
- 教育歴史、改正ポイントについて、これまであまり耳にすることのなかった角度からお話していただき、興味深く拝聴させて頂きました。
- 自分たちで考えたり、作りあげたりすることも勉強にはなったが、(36の動きの遊びをすでに経験していたことから) もっと新しいことを知りたかった。
- 36の動きの勉強不足だったので、解説があった上で、その上で体験できると良かった。
- B→Aの順番に実習したが、Aが先だとイメージを持って制作できたように思う。
- 金曜の研修は疲労感が出てしまうので、土曜一日の研修のほうがよかった。

(3) 成果

- ・近隣の3市をはじめ、県内全域から参加者を募ることができた。
- ・実習A「みんなで遊んじゃおう！」では、幼児期に必要な体の動きを取り入れた遊びについて、参加者に知らせることができた。実際に遊具に触れてみたり、遊んだり、作ったりすることで、自身の園に戻った時の遊びに生かそうという意識で参加していた。
- ・「くつろぎカフェ」では、多くの園の先生方や学生が交流をし、情報交換することができた。同じ職種でも普段あまり交流する機会が少ないので、良い刺激になった。また、学生の参加者にとっては、先輩保育士の話聞く貴重な機会となった。
- ・講演では、幼稚園、保育所の両方に偏りなく話が触れられ、参加者にとっては学びの多い場になった。時代と教育のあり方や変化、今後どうあるべきかを考える機会となった。

(4) 課題

- ・12月の開催で雪はそれほど多くなかったが、開催時期を「適当だと思う」がおよそ半数、そのほかの季節の開催を希望する意見が半数あった。アンケートには「雪の心配をしなくてもいい時期に開催してほしい」という意見が見られ、参加者の雪道に対する不安を考慮して時期を検討することが必要である。(春4人、夏11人、秋26人、開催時期は適当44人)
- ・アンケートには「もっと新しいことを研修できる機会だと思っていた」という意見があり幼児の運動プログラムを普及させていく上で、すでに経験している人と、全く初めての人に伝える内容を分ける必要性を感じた。
- ・実習を前半後半に分けて行ったため、受講する順番によって差が出てしまった。A→Bで受講できた参加者は運動プログラムについてイメージをもってから遊具作りに取り組むことができ満足感が高まったが、B→Aで受講した参加者からは「もっとしっかり教えてほしい」という声が聞かれた。1巡目と2巡目で構成を変えるなどの工夫が必要である。

担当：企画指導専門職 八俣 圭一